

自立支援部だより

～みんなで考えよう 特別支援教育の専門性～

2024年6月26日 第2号
むこがわ特別支援学校

今こそ、みんなで考えたい。ポジティブな行動支援（PBS）を広げるために。 「ほめ」の引き出し どのくらい持っていますか？

参考図書： 障害のある子への効果的な対応を学ぶ 保育士教師のためのティーチャーズ・トレーニングより

★当てはまる方に（○）をつけてみてください。

(1)あなたは『どちらの声かけ/関わり』が多いですか？ あなたは(A) (B)

A	B
肯定的「ポジティブ」な声かけ/関わり (肯定的な注目) が多い	否定的「ネガティブ」な声かけ/関わり (否定的な注目) が多い
・ほめる・認める・笑顔を返す・うなづく ・ありがとう・〇〇したら～できるよ。 ・肯定的なジェスチャー ・〇まるサイン ・グッドサイン・子どもの行動を肯定的に伝える。(あえて2つ提案) どちらにする？	・注意する・しかる・どなる・説教する ・にらむ・まゆ間にしわ・怒りのオーラ ・〇〇しません。してはいけません。だめ。 ・△△したら～できないよ。やめなさい。 ・何してるの！・また〇〇してる。

【ポイントその1】否定的な注目を減らし、肯定的な注目を意識的に増やしてみましょう。



子どもの好ましい行動 (=しようとしているのもOK・部分だけでもOK) に注目



声かけの内容を意識してみる → ほめる → 好ましい行動は増えていく(^_^)

(2)「ほめる」引き出し どのくらいありますか？

☆思いっただけ書き出してみましょう

【ポイントその2】肯定的な注目には「ほめる」をはじめ、いろいろな方法があります。

状況に合わせ、子どもに合わせて使えるようにほめ方のバリエーションを考えてみましょう。

☆行動に注目する ☆短く具体的に

①ほめる 「がんばったね」「やったね」「さすが！」「いいね」「やるなあ」「上手だね」「うまい！」

②その行動に気付いていることを知らせる実況中継的な声かけ 小さなことでもほめる。

「〇〇しているんだね(やろうという素振りも)。」できて当たり前という見方を変える。

★『25%ほめ』って知っていますか？ =すべてできたらほめるではなく、25%できたらほめる発想の転換を

③喜ぶ、おどろく 「うれしいな」「すごい」「〇〇でびっくり」「たすかった」「やさしいな」「よく気付いたね」

「ありがとう」「頼もしいな」「最高！」「すきよ」こちらから興味や関心を示す

④ジェスチャー うなづく、手を振る、ハイタッチ、拍手、OK サイン。グッドサイン。〇サイン。笑顔。表情で。

★(どうしても声かけが多くなりがちな人は)、「言葉を使わない伝え方」のバリエーションを持つておくことは、とても大切です。 声の大小、高低、ささやき声に変えることも有効！